

2020年の米国大統領選挙は、凄かった English Page

そしてアメリカに失望するとともに、今後の日米関係に影響しないか心配だ

中国の要人が隠さず国内で組しやすい相手と呼ぶのがバイデンだ。

元オバマ大統領の弟を中国が庇護して、政治に優位に立っていたと、同じくバイデンの次男のハンターバイデンの投資パートナーだから。

これほどの真実に目を疑ったが、現実に関今バイデンが米国大統領であることで、夢でないことを知らされた。

彼は選挙を不正行為で勝ち取った「担ぎ上げられた候補者」で、犯罪者だ。

しかも、公衆の前ではつきりと、不正選挙の告白ともとれる、映像がyou tubeで発信され、選挙期間中に物議を醸していた、日本でも見られた方も多いのでは。

そもその発端は、米国の一パーセント未満の富裕な資産家が、理想とする、社会主義の信奉者であることだ。

彼らは世界的に有名な企業「グーグル・アップル・フェイスブック・アマゾン」でネットでGAFAと入力すれば簡単に知ることができる。

最近ではマイクロソフトも一味である判り、深刻である。

何故問題かと言えば、米国は報道媒体の大手メディアの資本は彼らに握られており、自分達の不利な情報はすべて、覆い隠し、対抗相手の情報はすべて報道せず、排斥する。

結果選挙初日にTWITTER・YOUTUBE・ワシントンポスト・ウォールストリートジャーナル・フェイスブック等はバイデンの当確を早々に、先行報道し、我が国でも同じ報道が為された。

実はその夜、ミシガン州で選挙開票場で水道のトラブルを責任者が発言し、開票担当者を追いやり、全員退去を確かめたのち、四人の人間がテーブル下のスーツケースから投票券(偽造票)を取り出し、ドミニオンと呼ばれる投票機に、用紙を何回もスキャンして、わずかな時間に、数十万票のバイデン票を加算その瞬間それまでの、トランプの獲得した票を逆転した。

その不正行為の行動は監視カメラで、記録されており、裁判所・議会でも、検証されたが、共和党員の裏切り者の州知事・法務長官が否認した。

兩人には中国関係者からの多くの収受があるも、裁判所までも、懐柔・恫喝して結果事件は、揉み消された。

米国の多くの新聞には、中国の多大な資金が投入されて、中共の宣伝物も日常的に重ねて同時に配布されるのが日常である。

知らず知らず社会主義が我が国と同様教育機関に浸透米国は、中国の影響から、逃れるすべも無くなっている。

その後不正の発覚は続いて、内部告発などで告発する人たちが、続発したが総て民主党関係者や支持者などが証人の脅迫や告発の撤回をせまり、大統領の確定は年を過ぎるまで、持ち越しとなった。

然るに独のメルケル・日本の菅義偉などがバイデンに早々に祝辞を寄せたのには、驚かされた(媚中派かも)。 内閣調査室は機能しているか ?

そういえば米国の公式機関が媚中派の二階幹事長・今井秘書官・森女史を名だして、批判していた。

国益に沿わない輩は退陣してたもらわなくては。

今の米国大統領は、次男ハンター・バイデンと副大統領時に専用機で中国を訪問し、直後に次男の会社に多額の中国企業からの数回の投資があり、次男の共同経営者からの証言もあり、又ウクライナの検事総長が次男を告発の動きがあるも、圧力をかけて、検事総長を辞任に追い込んだ。

民主党も前回のヒラリー・クリントンとバニー・サンダースの間で行われた候補者選出で前述の選挙票集計機ドミニオン不正使用でクリントン候補が勝った事で適当な候補者が、見当たらずバイデンに決定したとの見方もある。

2016年のヒラリークリントンとトランプの選挙戦では、票の読み違えで、民主党がトランプの当選を阻止できなかったために、今回は周到に用意していた。

先のクリントンとサンダースの問題は金銭的に解決されたとのこと。

この選挙集計機はほぼ全州で採用されており、最初は独裁者チャベスが当選するために米国の諜報機関CIAが開発し、多くの国で使用されている。

まず今回の機械で使われている半導体・ソフトは中国製で、USB端子もありネットで遠隔操作が可能であり、今回は独のCIA施設で軍の秘密部隊に押収される際に、銃撃戦があり死亡者も出ている。

検証に依れば投票時にトランプ票 0.75 バイデン票 1.25で初期設定されていたが、トランプ票が 74,00万票と予想より多く急遽偽造用紙の使用に加え多くの不正行為がおこなわれた。

選挙の不正は次の通りだと、ニューヨーク州の前知事ジュリアーニ弁護士や軍事法務弁護士資格をもつパウエル女史が述べた。

- (1) 激戦州で不法に選挙制度を民主党有利に改正
- (2) 中国で刷られた大量の選挙票が(すべてバイデン記名)加算
- (3) すでに死亡している名義で投票
- (4) 事前に投票には登録が必須だが、投票数がそれより、多い
- (5) 未成年者名義の投票
- (6) トランプ票の廃棄
- (7) 老人保養施設での身代わり投票
- (8) 州によっては、投票率が90%を超えており、双方候補者併せて一億六千万票も 過去高い州で 75 %

自宅の地下室に籠っていた大統領候補が 米国史上最高の 8,000万票確保中共コレラに助けられての「郵便投票」のおかげだ。

影の黒幕とされた、まだ若いロスチャイルド総帥の急死も気になるところ。

今回の不正に施行された、行為にメキシコ州など多くの州が裁判所に提訴したが、公正であるべき最高裁も圧力に屈し、法曹の任務を放棄メキシコは独自に軍隊を持ち連邦からいつでも離脱できる権利がある。

トランプ大統領が任命した、二名の最高裁判事も、首席判事の廷内で大声恫喝で沈黙し、提訴を棄却したため司法の崩壊も起こした。

告発人は間違っただけで申告すれば罰則が最低五年にも関わらず数百人の宣誓書が寄せられ議会でも陳述された。

今回は共和党の裏切りや、司法省・CIA・FBIの加担が露見した。バイデンの次男のラップトップパソコンが修理に出されたが、引き取りがなくFBIに早期に届いていたが、重要な多くの証拠を確保しながらFBIは放置、FOXニュースがスクープ報道多くの不正が発覚した

司法省パー長官は弁護士在籍当時選挙不正機の所有会社の登記業務に関連して、司法権の発動をためらい、その後辞任した。

不正選挙に関わると目されるドミニオン保有会社の社員は調査に諮問決定後、ベネツエラに逃亡真相究明が遠のいた。

選挙不正機の事務所は何かと疑惑の多い、ダボス会議で有名なジョージ・ソロスの会社の一室であった。

この会社には中国からの資金の投資があり、中共関与の証とされている。

2020年1月6日の全州の選挙人票の集計がなされ、下院議長のペンス副大統領が不正選挙の認否の当日、会場に暴徒が侵入して、合同会議が、5時間53分中断した。

その際元軍人の女性が警備関係者により、至近距離から銃撃を受けて死亡した。

その後再開された会議でペンスが共和党を裏切り、不正の事実に触れずバイデンの獲得選挙人を認定する結果となり、次期大統領がほぼ確定。

すべてこの日を境に不正による議論は民主党の上・下議員(二名)優位で封殺され、不正選挙の調査も終了した。

さらに議論が復活するには、2年後の中間選挙の結果待ちとなる。

トランプ前大統領は新党結成の話もあったが、中間選挙でトランプの力を恃む共和党との話し合いで、引き続き共和党に留まり中間選挙の勝利を目指すようです。

議事堂事件は後日判明したところによれば民主党の暴力組織で有名な「フアティバ」のメンバーとみられ、ほとぼりの冷めた後日無罪放免テレビで映っていた、角の面の男性は腹部に八発の銃弾を浴びて死亡していた。

しかもテレビ映像では警備関係者が乱入前に誘導している画面が写されている

議事場乱入の目的はトランプ前大統領の公民権剥奪が目的で、下院議長のペロニーが自身の不正関与の発覚を恐れ、ペンス副大統領にトランプ在職中に閣僚主導で弾劾失職を持ち掛けたが、断られ画策したとの、風聞が流れた。

トランプ人気の高さ、政治発言力を削ぐ為の焦りが感じられるなぜなら失職が目前の大統領を二度も弾劾する必要がない。

大統領令は厳密には法の効果は疑問だが、選挙の二年前に、外国の関与が明らかであれば、戒厳令の発布も可能となる大統領令を公布したが、就任式当日国防省に核の危機の緊急事態が

もたらされ、事実の信憑性が高く、脅迫に屈しバイデンの就任が行われた。

それにしても事前に痴呆のうわさもあったが四十もの大統領令署名。

其の大統領令に今訴訟が相続している、トランプの政策に反する内容を羅列した書類に署名しただけで、理解されない内容を含んだ結果と思われる。

高齢でもあり、職務期間中に民主党や背後の黒幕の本来の「隠し本命候補者」の検事出身の女性副大統領が昇格しないことを願うばかりである。

これは危惧であるが、米国では20周年間隔で暗殺事件が発生していて、そろそろその年だ。

バイデン大統領が就任式前に、故郷を出立する前に涙を流していた映像が何故か印象的で、まるで二度と帰ることが無いかの姿だった。

カマラ・ハリス副大統領候補は直前まで、議員辞職をためらっていて、見通しが立たなかったのだろう。

カマラ・ハリスは極左の政治力皆無の偏見女子 怖い